



演出家

蜷川幸雄

YUKIO NINAGAWA

世界を唸らせたいという夢だけを頼りに。

演劇の「国際プロジェクト」は少なくないが、この企画の“国際度”は他を大きく引き離すだろう。

イスラエルのユダヤ系とアラブ系、そこに日本人が加わってギリシャ悲劇を紡ぐ。

3年越しの企画を動かす演出の蜷川幸雄に話を聞いた。

—この企画が立ち上がった直後、蜷川さんは「この作品を通して他者の痛みを想像する」と、さまざまな取材でおっしゃっていました。その時は、政治的、宗教的に複雑な関係にありながら共演するユダヤ系とアラブ系の俳優に対し、私達日本人は、まさに「想像する」第三者の立場でした。ところが尖閣諸島の問題などで、日本も他国との緊張度が一気に増し、今は領土問題が他人事ではなくになりました。そうですね。何とも言えずきな臭い、戦禍にまつわる物語がある種のリアリティを持ちそうな嫌な

空気が出てきたと思います。僕は小学校4年生の時に終戦を経験していて、子供ではあったけれども、戦争の状況を肌で知っているから、そこはとも気になります。—今、改めてこのプロジェクトの意義を洗い直すと「想像力」とは違うものが浮かび上がるのだと思いますが。傍観者として安全地帯で何か言っていればよかったですね。何とも言えずきな臭い、戦禍にまつわる物語がある種のリアリティを持ちそうな嫌な

うね。ユダヤとアラブの俳優に出てもらうことを決めた時から、政治のイデオロギーや宗教とは違うところで演劇を自立させたいと思っていますが、日本という国がこうした状況になって、どうしたってニュートラルな場所にいられなくなってきている。そこに新しい何かが生まれるのではないかと思います。もともと手強いプロジェクトである上に、つくる側のハードルはどんどん高くなっていますね。—このプロジェクトの手強さとは？日本語、ヘブライ語、アラビア語と3つの言語で

上演しますが、違う言葉が飛び交うだけでなく、思想と立場の違いが長い時間の堆積としてあるわけです。ある国の人は相手国の言語を話せるけれど、その逆はないとか。三者対等に物事をつくらうとしても、対等でない条件が最初に存在している。何度かワークショップをしましたが、すでにぶつかりあいもありました。たとえば、アラブ系の俳優がダンスを踊れば、ユダヤ系の俳優も踊りを披露する。人数も同じでなければダメ。それに、日本の常識と違うことも多々あります。イスラムは僕らほど戯曲を尊重せず、俳優が勝手に判断して、せりふを歌にしたりする。「台本があるから」と言っても平気で「ない」と答えるし、すぐに「出ない」と言い出す。反抗しているのではなくて、そういう文化なんです。言うのは当然だから主張する。そこで言い合いになっても、後々まで尾を引くことはありません。

—その対象が2つですから、一層大変ですね。そういう意味では、これまでイギリスを始め海外で仕事をしてきて—今回ほど激烈ではないけれども(笑)—、異なった文化圏の人とのやり取りに慣れていたことはよかったと思います。こ

ういう場合の闘争の仕方を、僕はある程度わかっていますから。もしダメだったら企画全体が壊れても仕方ないと思うくらいの覚悟でこちらも臨みます。—『トロイアの女たち』は、戦いに敗れた者達の悲劇、特に、敗戦によって運命が狂わせられる女達を描いたギリシャ神話です。なぜこの話を選ばれたのでしょうか。はじめは(何度も演出している)『メディア』にしようかなと思っていたんです。でもこっこのほうが、ストーリー上も演出の際も選択を迫られる話で、日本人として態度をはっきりさせなければならぬという点で、今、自分がやるべきものだろうと決めました。図らずも状況のほうがどんどん僕らを超

え始めて、正しかったといえば正しい選択だったけど、とんでもないことになりました。—その選択を引き受けて、目指すものは？今回に限らずですが、もうちょっといい作品ができるといい、世界中を唸らせたいという、勝手な夢みたいなものがあるんです。それだけを頼りにやっています。もしそれがなかったら、とっくに逃げ出したい企画ですよ(笑)。

取材・構成：徳永京子

日本人はもう、この作品の傍観者ではいられない。



蜷川幸雄 1935年生まれ。55年に劇団青俳に入団、68年劇団現代人劇場を創立。69年『真情あふる軽薄さ』で演出家デビュー。72年演劇集団「櫻社」結成、74年に解散後、『ロミオとジュリエット』で大劇場へ進出。以後日本を代表する演出家として国内外の現代劇から近松門左衛門、シェイクスピア、ギリシャ悲劇など幅広い作品

を手掛ける。83年の『王女メディア』ギリシャ・ローマ公演を皮切りに毎年海外公演を行い、その活動は海外でも高い評価を得ている。受賞歴多数。現在は彩の国さいたま芸術劇場、Bunkamura シアターコクーン の芸術監督。

東京芸術劇場・テルアビブ市立カメリ・シアター国際共同制作 トロイアの女たち

12月11日[火]～20日[木] プレイハウス

作:エウリピデス 演出:蜷川幸雄
出演:白石加代子/和央ようか ほか 日本人+イスラエルのユダヤ系、アラブ系俳優

	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00						●				●
14:00			●						●	
18:00			●		●					
19:00	●	●	●					●	●	●

チケット料金 | 【全席指定】
S席: 10,000円/A席: 8,000円/
サイドシート: 6,000円/
※65歳以上: 7,000円/※25歳以下: 4,000円/
※高校生割引: 1,000円 ※前売のみ、枚数限定

【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス
03-5391-3010 (休館日を除く10:00～19:00)

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

白石加代子

和央ようか